

I 研究のあゆみ

70年間継続してきた本校の算数教育のあゆみを研究主題ごとにまとめたものです。

1 算数の領域別指導法の研究（昭和25年度～41年度）

本校では、戦後の教育の混乱期の中で、「一人の落伍者も出してはならない」という悲願のもとに、いち早く算数教育の研究を始めた。基礎学力の向上を目指した計算力調査から研究を始めて、練習カードによる計算力の向上と子供一人一人に目を向けた実践を行った。以後は、論理的な思考を培う文章題の指導、操作活動を重視した図形指導、割合指導、量感を育てる指導などの研究をした。また、子供たちの理解を深めるために、55種千余点にもものぼる自作教具を製作した。

2 主体的に学ぶ子の育成（昭和42年度～54年度）

(1) 学習指導法の改善（昭和42年度～47年度）

新しい学力観や授業観を融合させ、これまで以上に学習者の主体性の確立と創造性の開発を目指した研究を行った。更に、子供がつくり上げる算数学習にするための問題意識の持たせ方とその場面設定の在り方、中心発問の研究を進めた。

(2) 一人一人が生き生きと取り組むための機器利用（昭和48年度～49年度）

浜松市教育委員会から教育機器利用推進校の指定を受け、「中心TP」というソフトウェアを開発した。中心TPを使い、子供に問題意識をもたせ、そこから多様な考えを引き出して、本時の目標に迫っていく研究を進めた。

(3) 算数ができていく場面に触れる学習（昭和50年度～54年度）

見通す力や自ら分かりやすくする能力と態度の育成に努めた。特に、考えを深め合い、練り上げる学習の在り方について、授業研究を中心に実践を積み、算数の楽しさ、よさを認めさせることができた。

3 学びがいのある算数学習（昭和55年度～61年度）

学びがいを、学ぶ内容によさを見出し、学びに豊かな情操を感得することととらえ、算数科の基本的な考えや方法のよさを見出し、「分かった」「できた」という成功・成就の喜びと、「もっとやってみよう」という強い意志、やる気を育てるために、教師と子供が一体となって学習しながら追求した。

4 学ぶ楽しさのある算数学習（昭和62年度～平成元年度）

生涯にわたる学習への強い意志と学ぶ喜びをもって、算数の学習に主体的に打ち込む子供を育てる授業を追求したいと考え、教材研究、子供研究を柱にして、科学的な研究を進めた。

これによって、子供たちは、操作・図・測定・計算に正確さが備わり、一人学びの力が付くとともに、友達と共に学ぶ楽しさを味わうことができるようになった。

5 数・量感覚を育て発展させる学習（平成2年度～4年度）

体験や思考を通して、いろいろな量の存在や量（分離量、連続量）に基づいた数の存在に気付かせ、数感覚や量感覚が子供に身に付くようにした。これらの研究から、数や量を身の回りの具体的なものと結び付けて考える子供が増えるとともに、主体的に問題を解決できる子供が増え、学習中に多様な考えが出せるようになった。

6 一人一人の子供が算数のよさを感得する学習（平成5年度～8年度）

単元ごとの算数のよさを観点別に洗い出したり、よさを感得する学習の在り方を探ったりした。この研究により、子供たちが算数のよさを生み出したり、よさに迫る話し合いを主体的に行ったりすることができるようになり、算数学習のおもしろさや楽しさを味わうことができるようになった。

7 「生活」に生きる算数教育のあり方（平成9年度～13年度）

算数科を通して生きる力を育てていくために、学習したことを生きる知恵として生かしていくことが大切であると考えた。生活から課題を見付けたり学んだことを生かしたりできるように、算数のよさを味わう学習を求めて研究に取り組んだ。

12年度からは、「算数のよさを味わうための躍動する学習」を視点におき、単元構想の工夫、学習展開の工夫を中心に授業研究に取り組んだ。

8 躍動する算数学習（平成14年度～20年度）

(1) 共につくり上げる学習活動を通して（平成14年度～16年度）

問いを基に課題意識を高め、自分の考えを友達と練り合い、算数のよさに気付きながら、みんなで学びをつくり上げる学習活動を通して、子供たちが学ぶことの楽しさや充実感、満足感を味わうことができる算数学習を目指して取り組んだ。

(2) 「学力」の確かな習得と定着を目指して（平成17年度～20年度）

問い続ける学習活動を「学力」という視点から見直し、付けたい力を明確にした授業を展開することによって、「学力」の確かな習得と定着を目指した。

9 創造する算数学習（平成21年度～25年度）

子供たち一人一人が課題を見付け、自分で解決したものを基に、学級全体として「新しいツール」を創り上げていく「問い続け、学び合い、つくり上げる学習活動」を通して、算数のよさを十分に感じながら、「学び合う『学力』」と「ツールとなる『学力』」を高める学習を目指した。子供たちの問いを大切に扱ってきたことにより、子供たちは自分の問いが取り上げられ解決していく充実感を味わい、主体的に学習に取り組むようになった。

10 探究する算数学習（平成26年度～30年度）

子供が主体的に取り組み、コミュニケーション活動を充実させ、そして、学びを深めていくことで、「算数っていいな」を表出できる授業デザインを目指した。課題設定やコミュニケーション活動、深い学びを目指す学習活動の工夫をすることにより、子供は「探究する算数学習」で追い求めてきたわかる喜びや学ぶ楽しさを味わうことができた。

11 明日を拓く算数学習（令和元年度～）

社会的、職業的自立に向けて必要な基盤を育成することができる算数学習を目指している。本年度は、2年次として、現在、研究中である。